

Sound Monitor

デジタルプロセッサ

DCL-500X

取付説明書：090003-2885B700

取付説明書

取り付けおよび接続を行う前に、必ずこの説明書をよくお読みのうえ、正しく作業を行ってください。指定以外の取付方法や指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。本機の実装には、専門技術と経験が必要です。お買い上げの販売店での取り付けをお勧めします。「取付説明書」をお読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

販売店様へ

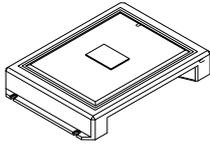
取り付け、接続作業が完了しましたら、この取付説明書をお客様へお渡しください。

もくじ

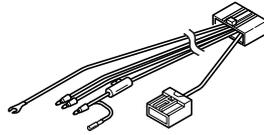
取り付ける前に	構成部品	2
	安全に正しくお使いいただくために	3
取り付けについて	接続端子の名称と役目	5
	システム接続例	8
	スピーカー接続例	10
接続について	デコーダユニットの取付	11
	車室内の f 特測定及びオートタイムアラインメントを実施する場合	11

構成部品

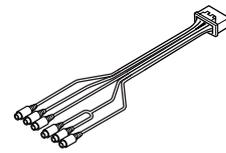
作業前に構成部品が揃っているか確認してください。



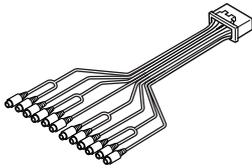
① デコーダーユニット
x 1



② 接続コード (16P-ギボシ)
(5 m) x 1



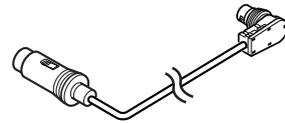
③ 接続コード (12P)
x 1



④ 接続コード (20P)
x 1



⑤ タッピングスクリュー
(M5x16) x 4



⑥ Dinコード (13 P)
(5 m) x 1



⑦ f特マイク
(2.5 m) x 1



⑧ f特マイク延長コード
(4m) x 1

⚠ 注意

本機に外部アンプを接続する場合は、以下に注意して作業を行ってください。
誤った作業を行うと本機が破損する原因になります。

- 取り付け作業前には必ずバッテリーのマイナス ⊖ 端子を外す。
- 本機および組み合わせる外部アンプのアースコードを確実に車のボディのアースが取れるところに取り付ける。
※ボディアースが確実に取れていない場合、本機が破損する原因になります。
- 全ての取り付けが終了後、バッテリーのマイナス ⊖ 端子を元通り取り付け。

安全に正しくお使いいただくために

この取付説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の表示をしています。その表示と内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

本機取り付けのために必ず守っていただきたいことや、知っておくと便利なことを下記の表示で記載しています。



アドバイス

本機の故障や破損を防ぐために守っていただきたいこと
知っておくと便利なこと、知っておいていただきたいこと

警告

- 本機はDC12V ⊖ アース車専用です。大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車などの24V 車での使用はしない。火災の原因となります。
- 本機を、前方の視界を妨げる場所や、ステアリング、シフトレバー、ブレーキペダルなどの運転操作を妨げる場所など運転に支障をきたす場所、同乗者に危険を及ぼす場所などには絶対に取り付けしない。交通事故や怪我の原因となります。
- 車体に穴をあけて取り付ける場合は、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認の上、これらと干渉や接触することがないように注意して行う。火災の原因となります。
- 車体のボルトやナットを使用して機器の取り付けやアースを取る場合は、ステアリング、ブレーキ系統やタンクなどの保安部品のボルト、ナットは絶対には使用しない。これらを使用しますと、制動不能や発火、事故の原因となります。
- 取り付け作業前には、必ずバッテリーのマイナス ⊖ 端子をはずす。プラス ⊕ とマイナス ⊖ 経路のショートによる感電や怪我の原因となります。
- コード類は、運転操作の妨げとならないよう、テープ等でまとめておく。ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻きつくと事故の原因となり危険です。
- 本機を分解したり、改造しない。事故、火災、感電の原因となります。
- 電源コードの被覆を切って、他の機器の電源を取るとは絶対に止める。電源コードの電流容量がオーバーし、火災、感電の原因となります。
- 音が出ないなどの故障状態で使用しないでください。事故・火災・感電の原因となります。
- ヒューズを交換するときは、必ず規定容量（アンペア数）のヒューズを使用する。規定容量を越えるヒューズを使用すると、火災の原因となります。
- 万一、異物が入った、水がかかった、煙りが出る、変な匂いがするなどの異常が起きた場合は、直ちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店に相談する。そのまま使用すると事故、火災、感電の原因となります。
- エアバックの動作を妨げる場所には、絶対に本機を取り付けと配線はしない。エアバック動作を妨げる場所に取り付け・配線すると交通事故の際、エアバックシステムが正常に動作しないため、事故の原因となります。
- 視界や運転の妨げになる場所へは取り付けないでください。交通事故の原因となります。
- ドリル等で穴あけ作業をする場合は、ゴーグル等の目を保護するものを使用する。破片などが目に入ったりして怪我や失明の原因となります。
- 接続したコードや使用しないコードの先端など、被覆がない部分は絶縁性テープ等で絶縁する。ショートにより火災、感電の原因となります。

注意

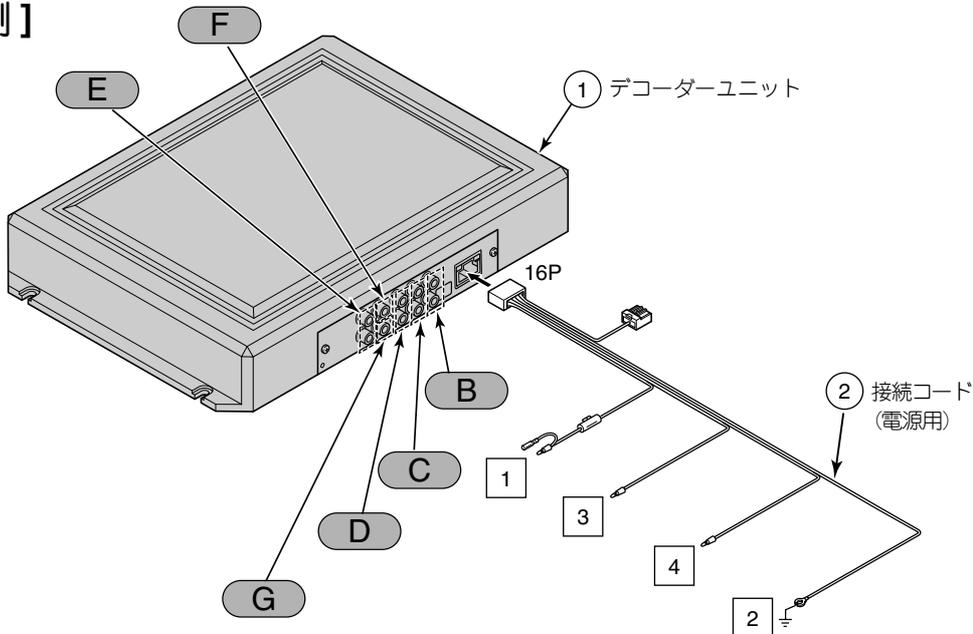
- 本機の取付・配線には、専門技術と経験が必要です。安全のため必ずお買い上げの販売店に依頼してください。誤った配線をした場合、車に重大な支障をきたす場合があります。
- 必ず付属の部品を指定通り使用してください。指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品を損傷したり、しっかりと固定できず外れることがあります。
- 雨が吹き込むところなど、水のかかるところや湿気、埃、油煙の多いところへの取り付けは避けてください。本機に水や湿気、埃、油煙が混入しますと、発煙や発火、故障の原因となることがあります。
- しっかりと固定できないところや振動の多いところなどへの取り付けは避けてください。外れて運転の妨げとなり交通事故や怪我の原因となることがあります。
- 直射日光やヒーターの熱風が直接当たるところなどへ取り付けないでください。本機の内部温度が上昇し、火災や故障の原因となることがあります。
- 本機の通風孔や放熱板をふさがないでください。通風孔や放熱板をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- 取付説明書で指定された通りに接続してください。正規の接続を行わないと、火災や事故の原因となることがあります。
- エアバッグ装着車に取り付ける場合は、車両メーカーに作業上の注意事項を確認してから作業を行ってください。エアバッグが誤動作する原因となることがあります。
- 車体のねじ部分、シートレール等の可動部にコード類をはさみ込まないように配線してください。断線やショートにより、事故や感電、火災の原因となることがあります。
- コードが金属部に触れないように配線してください。金属部に接触しコードが破損して火災、感電の原因となることがあります。
- コード類の配線は、高温部を避けて行ってください。コード類が車体の高温部に接触すると被覆が溶けてショートし、火災、感電の原因となることがあります。
- 本機の取り付け場所変更時は安全のため必ずお買い上げの販売店へ依頼してください。取り外し、取り付けには専門技術が必要です。
- 本機を車載用として以外は使用しないでください。感電や怪我の原因となることがあります。
- ケーブル・コードをアルコール、ベンジン、シンナー、ガソリン等の揮発性のもので拭かないでください。表面処理を傷める原因となります。

接続端子の名称と役目

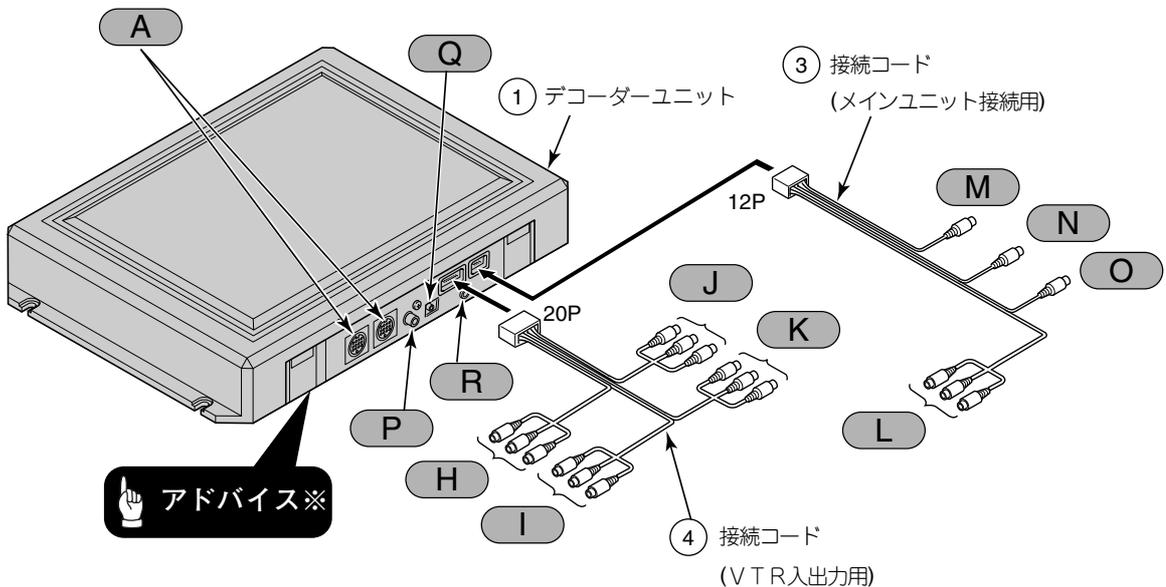
⚠ 警告

- 電源コードの被覆を切って、他の機器の電源を取ることは絶対に止める。電源コードの電流容量がオーバーし、火災、感電の原因となります。
- コード類は、運転操作の妨げとならないよう、テープ等でまとめておく。ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと事故の原因となり危険です。

【左側】



【右側】



アドバイス※

👉 アドバイス

- ※ 上の図は、コネクタをわかりやすく解説するために表現しています。実際にはカバーにかくれて、コネクタは見えません。デコーダーユニット本体とカバーは取り外し可能ですので、コードの接続が困難な場合は、カバーを取り外して行ってください。
- 接続コード②の線色および接続先は6ページを参照ください。
- メインユニットのコード、コネクタへの接続先 **A** ~ **R** 及び用途は6~7ページを参照ください。

◆接続コード②の線色および接続先

1 バッテリー電源端子 (黄色)

車のキーに関係なく常時電源が加わっているところに接続します。

2 アースコード (黒色)

車のボディのアースが確実に取れる所へ取り付けます。

3 DVD MUTE (桃色)

メインユニットのH/A MUTEに接続します。

4 NAVI MUTE (茶色)

ナビゲーションユニットのNAVI MUTEに接続します。

メインユニットにH/A MUTE およびNAVI MUTEがない場合は、ビニールテープ等で絶縁処理をしてください。
絶縁処理をしないと誤作動の原因になります。

◆接続コード③、④およびデコーダユニットの接続先

A LAN 通信端子 13P

メインユニットへ接続または、別売のCDチェンジャー等と組み合わせる場合に接続します。

B LINE OUT 端子 (Front Mid-Low)

C LINE OUT 端子 (Front / Front Mid)

D LINE OUT 端子 (Front Hi)

別売の外部アンプ等へ接続します。

白色: 左音声

赤色: 右音声

*スピーカーレイアウトが「1WAYスピーカー」、「3WAYスピーカー」により、接続するスピーカーが異なります。(スピーカーレイアウトの切り替えについては取扱説明書を参照してください。)

●スピーカーレイアウトが「1WAYスピーカー」の場合

LINE OUT 端子 (Front / Front Mid) **C** を使用します。

B と **D** 端子は使用しません。

●スピーカーレイアウトが「3WAYスピーカー」の場合

B Lowレンジ (ウーファ)、**C** をMidレンジ (スコーク)、**D** をHiレンジ (トゥィータ) として使用します。

E LINE OUT 端子 (Rear)

別売の外部アンプ等へ接続します。

白色: 左音声

赤色: 右音声

F センタースピーカー用 LINE OUT 端子

別売のアンプ付きセンタースピーカーまたは外部アンプに接続します。

G サブウーファ用 LINE OUT 端子

別売のアンプ付きサブウーファまたは外部アンプに接続します。

H	VTR入力用 LINE IN 端子 (CH1)	} 映像出力のある外部映像機器を接続します。 黄色: 映像 白色: 左音声 赤色: 右音声
I	VTR入力用 LINE IN 端子 (CH2)	
J	VTR出力用 LINE OUT 端子 (CH1)	} 映像入力のある外部映像機器と接続します。 黄色: 映像 白色: 左音声 赤色: 右音声
K	VTR出力用 LINE OUT 端子 (CH2)	
L	AV入力用端子 メインユニットのAV出力端子と接続します。	黄色: 映像 白色: 左音声 赤色: 右音声
M	NAVI 音声入力用端子 メインユニットのNAVI音声出力端子と接続します。	
N	映像出力用端子 メインユニットの映像入力端子と接続します。	
O	デジタル入力用端子 メインユニットのデジタル出力端子と接続します。	
P	RCA デジタル入力用端子 (DIGITAL 1) ICD-500X または CDC-200X 等、RCA デジタル出力のある外部機器と接続します。	
Q	光学式デジタル入力用端子 (DIGITAL 2) 光学式デジタル出力のある外部機器と接続します。	
R	MIC 端子 φ 3.5 ミニジャック 周波数特性を測定する場合、及びオートタイムアライメントを実施する場合に付属の測定マイクを接続します。	

アドバイス

- キャップが付いている端子を接続しない場合は、キャップを外さないようにしてください。

システム接続例

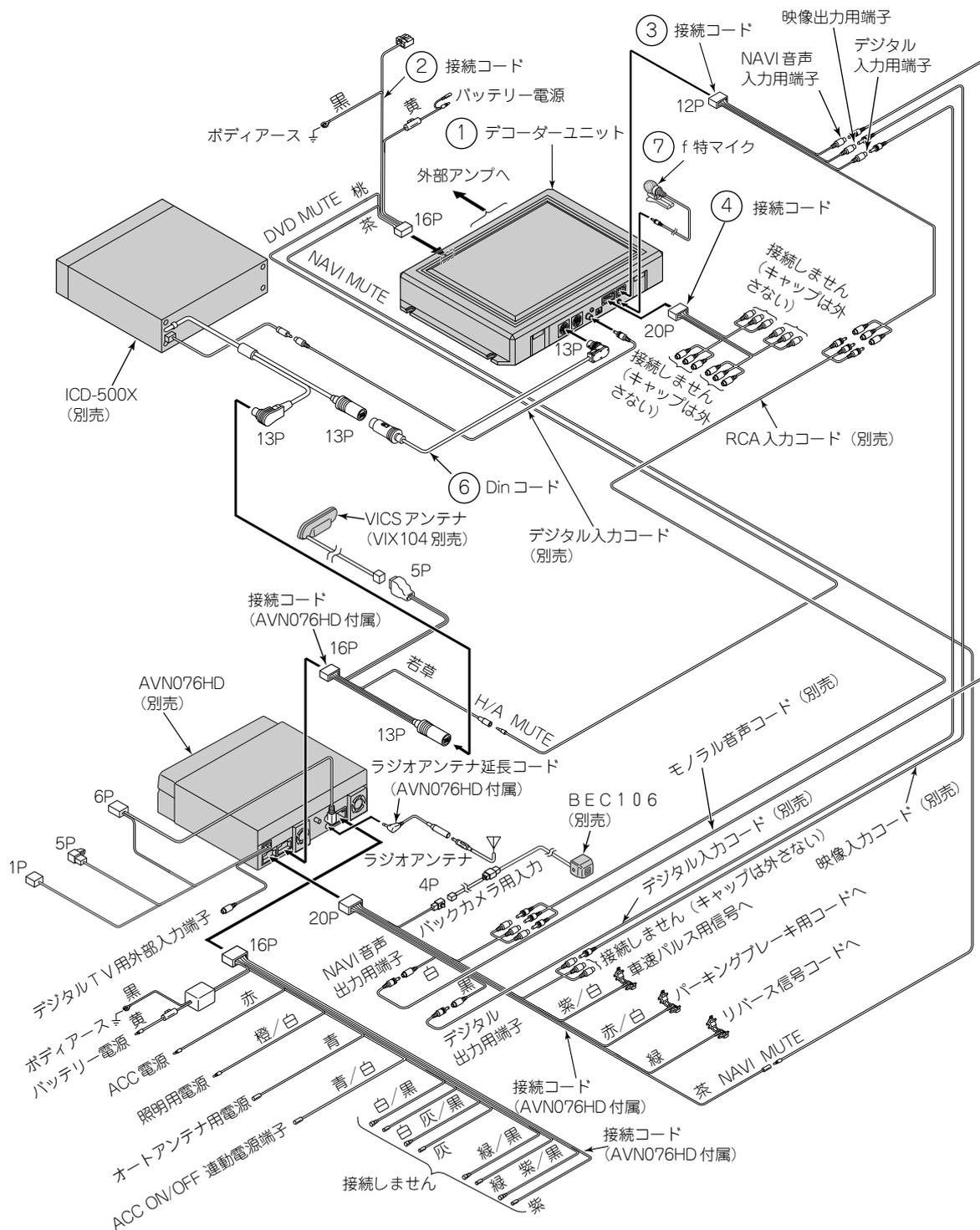
警告

- 電源コードの被覆を切って、他の機器の電源を取ることは絶対に止める。電源コードの電流容量がオーバーし、火災、感電の原因となります。
- コード類は、運転操作の妨げとならないよう、テープ等でまとめておく。ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと事故の原因となり危険です。

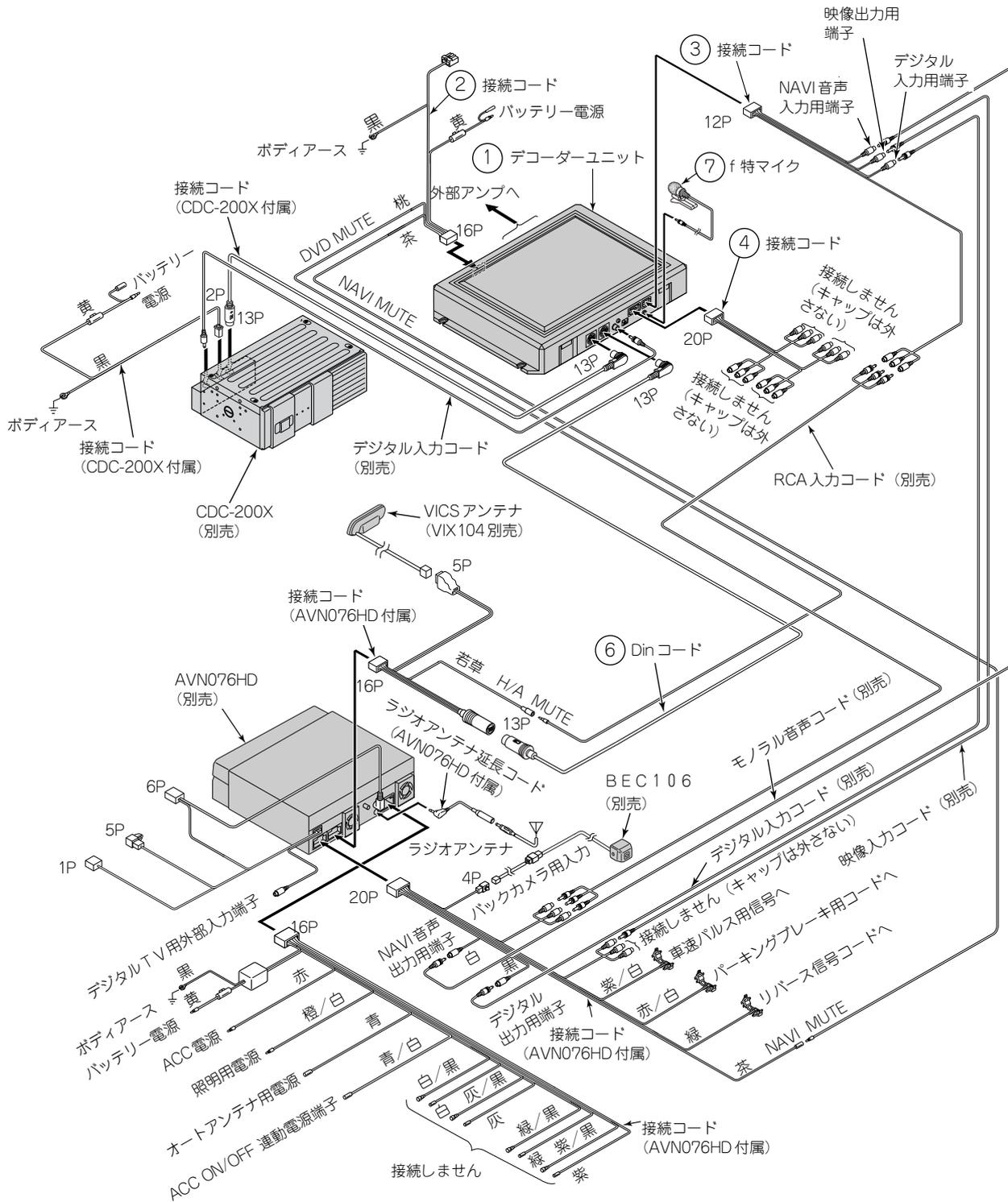
アドバイス

- メインユニットに接続する前に各ユニットの取付及び配線を行ってください。
- ピンジャックを使用しない場合は、キャップは外さないでください。

■ AVN076HD + ICD-500X + DCU-500X

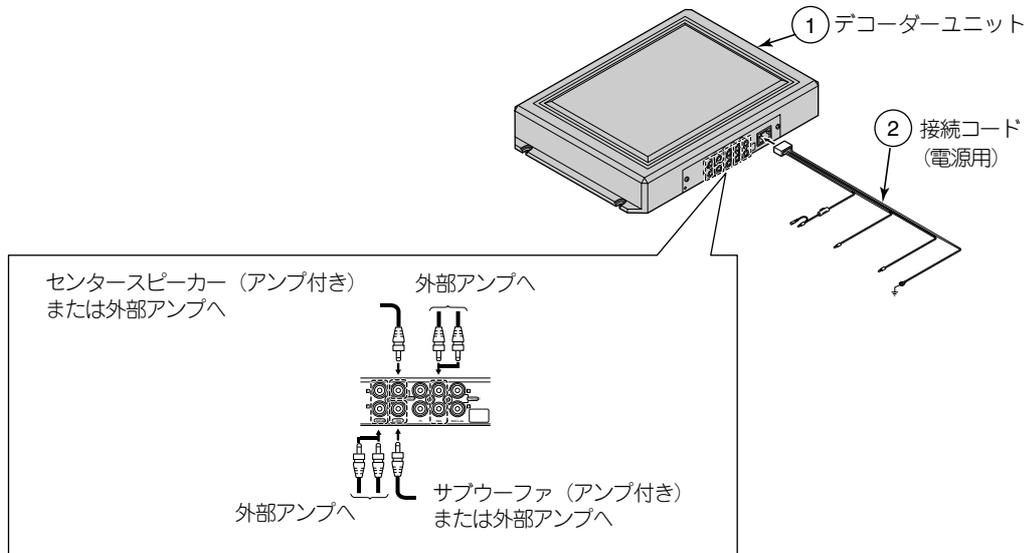


■ AVN076HD + CDC-200X + DCU-500X

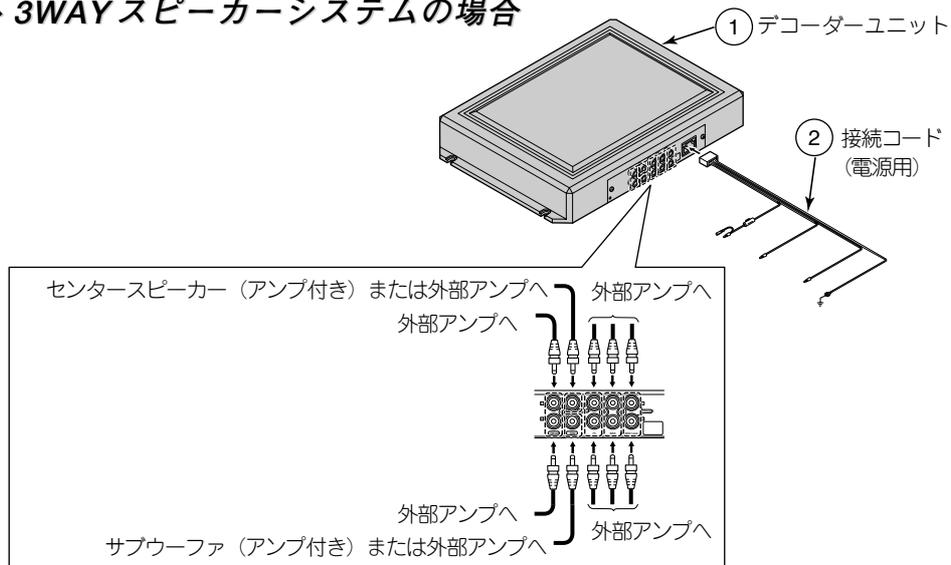


スピーカー接続例

フロント1WAYスピーカーシステムの場合



フロント3WAYスピーカーシステムの場合



アドバイス

- ナビ音声は、Front Mid 端子から出力されますので、必ず接続してください。

デコーダーユニットの取り付け

警告

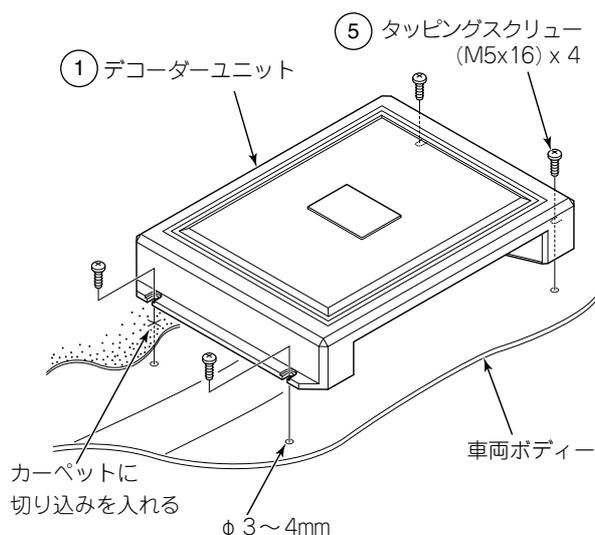
- コード類は、運転操作の妨げとならないよう、テープ等でまとめておく。ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと事故の原因となり危険です。
- 車体に穴をあけて取り付ける場合は、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認の上、これらと干渉や接触することがないように注意して行う。火災の原因となります。
- 本体の取り付けは、必ず付属の取付ネジを使用して確実に固定して下さい。

—取り付け例—

- 1 カーペットに切り込み（4ヶ所）を入れ、車両ボディーに取付穴位置をマーキングする。
- 2 車両ボディーのマーキング位置にφ3～4mmの穴（4ヶ所）をあける。
- 3 デコーダユニットをタッピングスクリューで車両に取り付ける。

警告

車内に穴をあけて取り付ける場合は、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認の上、これらと干渉や接触することがないように注意して行う。火災の原因となります。



— 車室内の f 特測定及びオートタイムアラインメントを実施する場合 —

- 1 デコーダーユニットに付属の測定マイクを接続する。
- 2 マイクを運転席のヘッドレスト等に取り付ける。

アドバイス

- ヘッドレストのアームに紐などを巻き付け、f 特マイクのホルダーを引っ掛けて固定してください。
- 調整方法については、組み合わせるメインユニットの取扱説明書を参照してください。



